

【熊本県教育委員会賞】

湧定でつかんだ、かけがえのないもの

熊本県立湧心館高等学校 4年 中山 弘樹

「あー、湧心館はあそこかなー」私は、2年前の熊本地震の後、仕事で熊本城の天守閣の足場を組みました。なかなか大変な仕事でしたが、仕事の合間の一息ついた時に、私の通っている湧定を見つけました。

私は小学1年から3年までの記憶が全くありません。担任の先生が誰だったかも覚えていません。とにかく学校が嫌いでした。けれど4年になって初めて、学校がやっと面白くなりました。それは、私を気遣ってくれる先生が担任になったからです。6年になって、初めて平仮名を書けるようになりました。

4年前の1月、小学校の友達と新年会をしました。その時、「高校に行きたい」と言ったら、みんなが「がんばれ」と言ってくれました。それがきっかけで、高校を受験しました。その時の願書は、小学生の時に、私に平仮名を教えてくれた先生と一緒に書きました。

私は、中学を卒業してすぐに型枠大工の仕事に就きました。会社の寮に入り、仕事では材料が重く、特に雨が降る日はきつくて大変でした。しかし、人が嫌がるきつい仕事をすると、ほめられることが嬉しくて頑張れました。

18歳のある日、鳥栖の現場に向かう時、高速道路の看板の「鳥栖」という字が読めなくて、とても困ったことがありました。その頃から、いつも、字の読み書きを勉強したいと強く思うようになりました。

十代の頃は悪いことばかりをしていました。その時、母親から「こんな子に育てた覚えはない」と怒られ、泣かせてしまいました。泣いている母親を見た時、自分が情けなく、涙が出ました。なぜ自分はこんなに悪いことばかり、愚かなことをしてきたのかと思い、悔しくなりました。その頃、親父が亡くなり、生活が大変でした。私は親父の代わりに、家族を守ることも仕事だと思いました。自分のためにも、母のためにも、一人前の社会人になろうと強く思いました。

母の体は小さくてとてもやせています。足は細く歩き方がぎこちないので、買い物には一緒に行き、母の手を握っています。苦勞をかけた分、母には精一杯親孝行をしたいです。

湧定に入学してからは、1年の時の担任の先生から面倒をよく見てもらい、学校へ行く楽しさを教えてもらいました。2年になってからは「新聞を読みたい」と思い、放課後、学校に残って字の読み書きを練習しています。先生方にはいつも親切に教えてもらい、クラスの仲間にも助けてもらっています。湧定では、私の周りに誰かがいてくれ、安心して勉強することができます。

湧定に来なかったら、夜はテレビを見て、のんびり家で過ごしていたかもしれません。けれど今、私は充実した日を送り、人はいつでも変わることができると実感しています。私を支えてくれた多くの方々、そして母に心より「ありがとう」の気持ちを伝えたいです。